

姫路朝祷会創立 50 周年記念集会奨励 「主イエスを仰ぎ見つつ、受け継いだバトンを、次の世代に！」

日本基督教団姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか。信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもちとわなないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。あなたがたが、気力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。」（ヘブライ人への手紙 12 章 1～3 節、新共同訳聖書）

姫路朝祷会創立 50 年を迎えられお目出度うございます。

「姫路朝祷会(超教派)の成り立ち」について先ず歴史的に振り返りたいと思います。1976年(昭和51年)5月1日(日)にラジオ牧師・羽鳥明先生を講師にお招きし、超教派の集会で「姫路クリスチャン修養会」を開き、恵まれた時を導かれ感謝したことです。その翌日、2日(月)羽鳥先生を囲んでホテルで朝食懇談会(教職・信徒)を行いました。そのことを契機として姫路で朝祷会の設立を願っておられた中谷繁雄兄を中心として、永年の祈りの内に「姫路朝祷会」が同5月11日(水)に大阪朝祷会の祷友達の応援を得て全国で101番目として発足しました(世話人・中谷繁雄兄)。それと相前後して姫路に超教派の働きとして「姫路キリスト教宣教協力会」と「カルバリー聖歌隊」が発足しました(後に解散)。その働きの発端に関わらせて頂いた幸いを感謝しています。

姫路朝祷会の発足当時、姫路教会から中谷繁雄兄、菅原博兄、姫路福音教会から中村幸吉先生、谷村梅之助兄、姫路五軒邸教会からは山本仙之助兄、内海真一郎兄、姫路和光教会からは橋崎良一兄、また加古川から西山敏和兄(はりま平安教会、後に東播磨朝祷会発足)等が中心メンバーとなり励み協力して下さいました。牧師では兄弟団網干教会の合田くに先生や姫路シャローム教会の的場康正先生、姫路教会の作道至示先生、姫路城北教会の浮田益夫先生、聖公会の前田次郎司祭、カトリック教会からハリー神父も加わって下さっていたことを思い出し、その他多くの先生方が奨励をして下さり、祈りをもって励まして下さっていたのが印象的です。

姫路朝祷会の世話人も中谷繁雄兄の後、姫路福音教会の今城輝雄兄、そして数年前に現在の三木章弘兄が世話役を引き受け、黒田宏・恵美子ご夫妻や多くの方々のご協力の賜物と心から感謝しております。毎月第2、第4水曜日午前7時より姫路福音教会で、信徒が司会をし、姫路市内及び近郊の教会の牧師・神父からメッセージを聴い

た後、祈りを共にし、朝食後散会し、それぞれの生活の場に遣わされて行きます。また対外的に朝祷会全国連合全国大会、年頭集会、近畿ブロック集会等を姫路朝祷会が担当して度々開催することもでき、恵みに与り感謝している次第です。

今朝、朗読して頂きましたヘブライ人への手紙 12 章の始めには信仰生涯を走り抜いた「多くの証人に雲のように囲まれている」と語られています。勿論このみ言葉の背後には 11 章に旧約聖書の多くの証人たちが列挙されています。その人たちの名前を読むだけでその信仰の有様が浮かび上がっていきます。皆「信仰をもって生涯を全うした人たち」です。同様に姫路朝祷会のために 50 年関、祈り続け、守り続けて下さった方々の先輩達(有名・無名を問わず)のことを思い浮かべることにより大きな励ましと勇気が与えられるのです。

それと共に私たちはいつも「すべての重荷と絡みつ়く罪」を主イエス様の十字架の許にかなぐり捨て、主イエス様を仰ぎ続け、祈り続け、歩むことが肝要であります。主イエス様は、私たち及び祷友たちの信仰の導き手であり完成者であります。そのイエス・キリスト様は昨日も今日も何時までも変わらない御方であります。また様々な苦難を経験され、十字架の死にまで従い通された御方です。私たちはどの様な時にもそのイエス様を見続け、思い続け、仰ぎ続けることが大切なのです。私たちお互いは使命として朝祷会に励み、祈りを共にしておりますが、時には心は熱していても肉体が弱いために疲れ、気力も失うこともあると思います。しかし、主イエス様の執り成しと御霊様の助けと祷友たちの祈りに支えられ、力を与えられることによって「気力を失い疲れ果ててしまわず」祈り続けることが出来るのです。

小説家の大江健三郎さんが小説の中で次のように書いておられます。「私はクリスチャンではないが、クリスツンホームには素晴らしい姿がある。それは皆が心を合わせて祈ることができる。イエス様に信頼し、イエス様を仰ぎ続けて祈る姿である。」

私たちひとり一人も朝祷会に励んで出席して祈り、60 年、80 年、100 年に向かって、先輩の祷友たちから受け継いだ「祈りのバトン」を、祷友たちと共に次の世代に受け渡していこうではありませんか。

(主の 2026 年 5 月 13 日、姫路福音教教会にて)